

## 食道がんの予防、節制だけでは効果認められず、「禁酒禁煙で 8 割低下」

食道がんの患者が飲酒と喫煙の両方をやめると新たな食道がんの発生リスクが約 8 割低下する一方、飲酒と喫煙の量を減らす“節酒・節煙”のみでは効果は認められなかったとの研究結果を、京都大のチームが英科学誌に発表しました。

研究の結果、飲酒や喫煙をこれまで通り続けた場合と比較したところ、がん発生リスクが禁酒では 48%、禁煙で 56%、禁酒と禁煙で 79%低下しました。一方節酒・節煙では有意低下がみられませんでした。